

よみがえる秋田城跡

高清水の丘に位置する秋田城跡は、天平5年（733）から最北の城柵として機能し、奈良から平安時代にかけて古代地方官庁として政治や軍事・文化の中心地でした。

しかし、古代城柵は平安時代末期には終焉を向かえ、秋田城の堅固な施設は朽ち果て、日本海から吹き上げられた飛び砂も手伝って、人々の記憶から忘れ去られていきました。

長く時が過ぎ、江戸時代には研究者らによって城の存在が再認識されるようになり、昭和14年に国の史跡に指定されました。一方、史跡内で宅地造成などが行われ、急増する開発にも苦慮してきました。

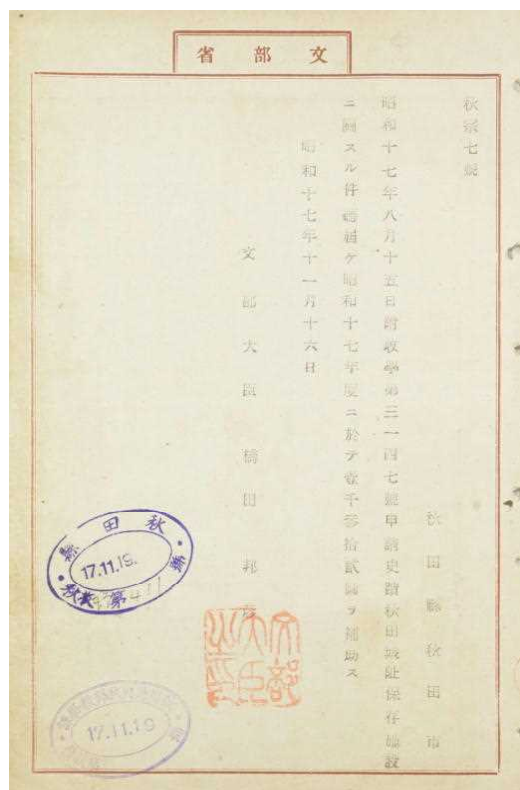
現在は、史跡の実態解明とともに復元整備を進め、史跡公園として少しずつ往時の姿を市民に公開しています。

「昭和17年 史蹟秋田城跡関係書類」より

国の史跡に指定され、市民の史跡に対する認知度向上のために、説明板等の設置は必要不可欠でした。

左の文書は、一帯が国指定史跡であることを周知するための石碑と、史跡を解説した説明板設置にあたって、国庫補助金を受けるために昭和17年8月15日付けで文部大臣へ申請し、同年11月16日付けで承認されたものです。

これを受けて、石碑と説明板は史跡内3ヶ所に設置されました。



右の写真は、国庫補助金を受けて設置した石碑と説明板です。

どちらも高さが約2.4mと大型で存在感があり、人目に付きやすい場所に位置しています。

